

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和元年10月17日から令和2年3月11日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和2年 1月現在）

事業所名： （施設名） 長野市真島保育園	種別： 保育所
代表者氏名： （管理者氏名） 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課課長 広田 貴代美	定員（利用人数）：85名（65名）
設置主体： 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和27年4月20日
所在地：〒381-2204 長野県長野市真島町真島1425番地1	
電話番号： 026-278-2162	FAX番号： 026-278-2162
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員：15名 非常勤職員：16名
専門職員	（専門職の名称） 名
	・園長 1名 ・看護師 1名
	・保育主任 1名 ・給食調理員 8名
	・保育士 20名
施設・設備 の概要	（設備等）
	（屋外遊具）
	・滑り台 ・鉄棒 ・雲梯 ・砂場
	・乳児室 } …1室 ・ほふく室 } ・保育室 … 3室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 1室

3 理念・基本方針

○長野市保育理念（保育所型認定子ども園を含む）

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

○真島保育園保育目標

見て 聞いて 感じて 考えて
とことん あそぼう

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

真島保育園は長野市が直接運営する 28 保育園(内休園 1 園)と 2 認定こども園のうちの一つで、昭和 27 年 4 月に開設された。

当保育園は旧真島村真島に真島保育園として開設され、昭和 27 年 4 月に児童福祉法により認可され、真島小学校校舎の一部を借りて保育が始まった。その後、昭和 31 年 1 月、真島村が青木島村、稲里村、小島田村と合併したことから更北村立真島保育園と改称された。昭和 31 年 11 月には小学校の改築に伴い現在地に園舎が新築され、昭和 41 年 10 月、更北村が、長野市、篠ノ井市等、2 市 3 町 4 村で昭和の大合併をしたことにより長野市に移管された。昭和 60 年 3 月には新園舎が完成し、平成 30 年度にはトイレの全面改修が実施され、現在に到っている。

真島地区は長野市街地の東南部にあり、保育園の園歌にあるように梵天、本道、中真島、前淵、北村、堀之内、川合、四ツ橋の集落からなり、国道 19 号の長野市街区間(県庁通り・昭和通り)における混雑を解消するために整備されたバイパス、長野南バイパスから犀川にかかる五輪大橋へ向かう道の南へ少し入った 1998 年長野冬季オリンピックで使用されたホワイトリング(長野市真島総合スポーツアリーナ)の東側にある。また、長野駅から南に直線で 5 km ほどの位置にあり、古くは馬島と記され、延喜馬寮式の官設牧場であったという歴史ある地で、佐久の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川と、槍ヶ岳をはじめ日本アルプスの峰々を源流とする犀川の合流地点として、肥沃な地となっている。遠く西には日本の屋根と称される北アルプスが眺望でき、長野市民の山・飯綱山が北に大きく聳え、志賀高原方面の山々の眺望も開け、広々とした開放感のある場所となっている。更に、真島地区は信州りんごの発祥地でもあり、現在も、果樹栽培が盛んに行われており、水田も多く、当地区の属する更北地区は、国道 18 号と国道 19 号長野南バイパスが交わる交通至便の地として近年宅地化が進むとともに、商工業の基盤が整備され、時代の移り変わりとともに発展を遂げている。

当保育園はその長野南バイパスの南側にあり、隣接して真島小学校もあり、学校の近くにホワイトリングや清水神社などがあり、園の子ども達の散歩の、絶好のフィールドとなっている。近くには JA のセンター、郵便局、地区公民館、千曲川流域下水道施設「アクアパル千曲」などもある。当保育園の周りは自然が豊かで、子どもたちの散歩や探索の場も多く、散歩のエリアも小学校、神社、お寺、千曲川の土手、アクアパル千曲などに及び、散歩コースも年齢に合わせて幾つか設定されている。昨年、令和元年 9 月には「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けているが、既に、それ以前から豊かな自然に親しめるように散歩などの園外活動を多く取り入れており、認定を契機に、様々な体験を深め、更に、知力と体力を高めようと色々な工夫を加えている。

こうした中、当保育園の隣接地には園の多くの子どもたちが就学する真島小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の中の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の音楽会や運動会に招かれ、また、授

業参加をするなど、小学校1年生、5年生と定期的に交流している。また、学校区内にある、更北中学校の生徒も職場体験などで来園し子どもたちとふれあっている。

現在、当園には0歳児と1歳児9名のノンタン組、2歳児9名のバンビ組、3歳児19名のピノキオ組、4歳児14名と5歳児14名混合のエルマー組・トムソーヤ組(令和2年1月現在)の四つのクラスがあり、それぞれの子どもたちの発達段階に合わせて作成された2019年度「全体的な計画(保育課程)」の「保育方針」に掲げた「自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培います」「好奇心や探求心を持って人や物に関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てます」「異年齢や地域の方・お年寄りとの交流を深め、人との関わりを持つことを大切にします」等の実現に向けて、子どもの発達の特性や発達過程を理解し、その発達及び生活の連続性にも配慮しつつ子どもたちと生活や遊びを共にしている。代々続く家も多く保育園への信頼度も高く、また、地域の人々の次代を担う子どもたちに寄せる期待も大きく、地域の環境を活かした活動を通じ、子どもたちは、知的な好奇心や感性を育み、異年齢の集団活動の中でコミュニケーションや社会性を育てている。

また、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するための長時間保育や一時預かり、おひさま広場、障がい児保育等を実施している。長時間保育は短時間保育利用者も時間外保育を必要とする際に利用できるサービスで、標準時間保育と合わせると40名近くの子どものたちが利用している。一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じ子どもを受け入れている。障がい児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容で当園でも園舎内はバリアフリー化が徐々に進められている。更に、おひさま広場では未就園児と保護者対象に園開放と子育て相談も行っている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2019年度から2020年度までの中期計画として、長野県自然型保育(信州やまほいく)の実践を積み上げること、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ることなどを掲げ積極的に取り組んでいる。また、職員は、当園の事業計画のうちの重点課題、「保育内容の充実」として自然を生かした保育を行うこと、地域資源と人材を生かした保育を行うこと、異年齢保育を充実させること、小学校との連携の推進等を掲げ、子どもの主体としての思いや願いを受け止め、日々の人との関わりの中で人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを養い園での活動を効果あるものにするよう援助している。

5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

◇特に良いと思う点

1) 自然と開発が共存する環境を活かした感性を育てる保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰでは『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その1の「自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」とし、また、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」としており、職員はそれらを具体的に実践している。

長野市の東南部に位置する当保育園は長野オリンピックと共にオリンピック施設・ホワイトリンク(長野市真島総合スポーツアリーナ)、白馬村まで続くオリンピック道路(通称、長野南バイパス)が開通し開発が一挙に進んだが、一方では、地域に果樹園、田畑が広がり、園舎からは飯綱山も大きく見渡せるほどのどかな自然に囲まれている。

多くの子ども達が卒園後就学する真島小学校とも隣接しているので子供たちは、小学校の校庭で遊んだり、マラソンを行い小学校にも親しんでいる。昨年9月には、「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受け、週5時間以上自然との触れ合いを大切に活動を取り入れている。月別の信州やまほいくに関わるの記録では、4月の「りんごやさくらんぼの摘花の見学・体験、菜の花摘み」を始め、1月・2月の「土手でのソリ遊び、雪の上の動物の足跡探し」まで、春夏秋冬に合わせた様々な活動をしている。

当保育園ではお散歩マップ、真島の史跡マップなどを作成し、散歩の途中での触れ合い、発見の様子を写真入りで「探検ノート」として綴り、見つけた草花を園へ持ち帰り制作物に使用したり、ザリガニ、沢ガニ、メダカ、カブトムシなどの小動物を捕まえ飼育の様子を「発見ノート」として作成し廊下に置くなど、子供たちの自然との触れ合いの様子を家庭などにも伝えている。

散歩のみでなく、信州型自然保育の認定以前から地域の方の指導を受け園庭の畑で、キュウリ、ナス、ジャガイモ、ピーマン、オクラ、3尺マメ、サツマイモ、ミニトマトなど野菜を栽培し生長観察や収穫を体験したり、給食の食材に取り入れている。給食の玉ねぎ、トウモロコシの皮むきなどの手伝いも取り入れ、食への関心を深める工夫もしている。

更に、当保育園では小規模園ならではの特徴を生かし、異年齢で関わりながら自然の中で遊び、各クラスの遊びが年長児から年中児、更に、年少児へと自然に伝わり、みんなが楽しく遊ぶためにルールや役割分担が自然に生まれており、年下の子どもは年上の子どもに刺激を受けて興味や関心の幅を広げており、年上の子どもを目標とするため実力以上の能力を発揮している。

当保育園の全体的な計画(保育課程)でも教育面の「環境」で「安心して活動しやすい環境で、探索活動等を通して、様々なものに興味・関心を持つ」「身の回りの物や自然物に関わる中で発見を楽しんだり、考えたりしようとする」「身近な人や物、自然物に興味を持ち、関わる」「身近な環境に自分から関わり、発見や変化を楽しんだり、考えたり、取り入れて遊んだりする」「身近な自然に触れ、その大きさ、美しさ、不思議さを全身で感じたり、自然の性質や仕組みに興味や関心を持つ」とそれぞれの年齢に応じて設定している。自然の中では、全ての子どもに主役になるチャンスがあると言われている。他の子どもと比べたり競争するのではなく、それぞれが自由にいろいろなことを試し、考え、教えあうことで、ありのままの自分や友達を受け入れることができるようになるとも言われている。当保育園では自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心を高めるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもてるように、また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に思う気持ちをもって関わるように小まめに園外活動をしている。

2) 地域の人々との交流活動の充実

新保育所保育指針では「家庭及び地域社会との連携」として「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子ども等を含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること」とされている。

また、「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅳでも『育ちを支える』家庭・地域との連携」と掲げ、その2の「地域交流活動の充実」として「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」「豊かで特色のある様々な地域資源を十分に活用し、『社会力』の基礎育成に取り組む」などの目指す内容を示しており、当保育園ではそれらに沿って具体的に活動している。当保育園では子ども達が地域の人々との交流を広げ、また、地域に対して保育園や子ども達への理解を深めるために地域活動に参加している。

当保育園の事業計画や全体的な計画としても文書化しており、地域の高齢者施設の利用者とふれあったり、年6回、世代間交流として野菜の苗植え、焼き芋会、しめ縄づくりなどを地域のお年寄りから指導を受けている。また、地域の人々の野菜作りの支援、果樹園の収穫体験などたくさんの方の協力、指導を得て学ぶ機会もある。年長児はリンゴの摘果、袋掛け作業体験をし、自分の

名前入りのシールを貼ったリンゴの実りを待ち、名前入りリンゴの収穫を楽しんでいる。

また、園を中心としたエリアには1998年長野冬季オリンピックでフィギュアスケート及びショートトラックスピードスケート競技の会場となった「ホワイトリンク」、千曲川流域下水道施設「アクアパル千曲」、神社、千曲川の土手などの散歩コースもあり散歩の途中でも声掛けをしてもらい、時にはプレゼント(りんご)をいただくこともある。更に、隣接する小学校の運動会・音楽会への参加、中学生の体験学習の受け入れなども実施されており、お話ボランティア、茶道教室の講師、おひさま広場に来る親子、近くの保健センターで行われる親子広場交流などの親子、フットサルやバスケットボールのプロ選手など、様々な人々とふれあうことができるようにしている。

当保育園では保健師による講演会、親子ふれあい事業等の開催もし、主任が地域の保健センターに出向き、4ヶ月健診で情報等の提供を行ったり、子育て相談に乗ったりしている。更に、地区の保健センターで行われる住民自治協議会の親子広場にも主任が出向いている。当保育園のある真島区も属している更北地区全体で行われる「更北フェスティバル」には幼児の作品なども出品し、「更北夏祭り」にも主任が参加し当保育園のブースを設け園の紹介とともに子育て相談に応じている。更北地区としての防災ハザードマップもありJAセンター、小学校、交番、消防署などとの連携もとれるようになっている。災害時の避難場所は隣接する真島小学校で、水害時に向けた防災訓練も毎年合同で実施している。当保育園も緊急時は地域の避難場所になることを想定している。

3) 小学校との連携

当保育園の発祥の地ともいえる真島小学校がすぐ南に隣接しており、フェンス越しに小学校のグラウンド接しすぐ出て使え、日常的に交流できるということも踏まえ地域の幼保小連携会議で年間計画が立てられ、互いの資源を十分生かしつつ小学校児童との交流を行っている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱでも『育ちをつなぐ』幼・保・小の連携」と掲げ、その1の「アプローチカリキュラムの作成」として「年長児後半から小学校1年生夏休み前までを見据えた接続カリキュラムの作成」、その3の「小学校との連携の充実」として「幼保小連携会議の充実を図るとともに、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の職員とによる意見交換の機会の設定」「『小一プロブレム』解消に向けた、小学校における子どもの育ちを支えるために活用しやすい資料の作成」などの目指す内容を示しており、当保育園ではそれらに沿い具体的に活動している。

現在、真島小学校と共同で作成した「子どもの育ちをつなぐ接続期(アプローチ・スタート)カリキュラム～子どもの育ちをつなぐ～」を基に、就学を見通した保育に向けて年長児の後半6ヶ月をアプローチカリキュラムとし、また、小学校入学からの前半6ヶ月をスタートカリキュラムとして策定し、就学時に目標とする子どもの姿を実現するために協働している。当保育園では「全体の計画」の中で子どもの就学前の理想の姿作りに向けて「5歳児」の年間目標を「様々な活動を楽しむ中で、考えたり工夫したりしながら諦めずにやり遂げ、自信を持つ」とし、「健康、人間関係、環境、言葉、表現」の5つの領域で「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」を目指し、「見通しを持ち、身の回りのことを進んで行う」「自己を発揮し周りから認められ自信を持って行動できる」「相手に分かるように話したり、相手の話を注意して聞いたりする」「感じたこと、考えたことを自分なりに表現する」等の具体的な保育内容に取り組んでいる。

小学校との連携・交流の機会も数多く設けられており、日頃から真島小学校の校庭へ散歩に出掛けたり、マラソンなどをしながら児童と自然に親しみ、小学校1年生、5年生と授業参加や歌などを通じ交流し、運動会、音楽会等に子どもたちが携わることで小学校での生活に興味や意欲、関心が持てるようにしている。また、継続して毎年度、小学校と水防合同避難訓練を実施し万が一に備えている。更に、双方の職員が幼保小連携会議に出席し、相互に訪問し合い、接続期の育ちをどう理解しつなぐか学び合う機会も設けている。

4) 地域を知るための職員研究

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅳでも『育ちを支える』家庭・地域との連携」と掲げ、その2の「地域交流活動の充実」として「地域の文化に触れ、地域に親しみや愛着が持てるように地域交流や指導計画に位置づけて、活動を推進」と目指す内容を示しており、当保育園ではそれらに沿い具体的に活動している。

長野市公立各保育園が年度に1テーマを設け実施している研究レポートとして、当保育園では今年度のテーマを「真島っていいところだね!」を取り上げ、子どもたちが地域に親しみを持ち、心豊かに育つことを願って地域の歴史ある文化を保育に取り入れようとしている。

当保育園には園歌があり、真島地区の梵天、本道、中真島、前淵、北村、堀之内、川合、四ツ橋の8カ所の地名が織り込まれ、卒園生でもある子どもたちの親世代も諳んじることができる歌となっている。それぞれの地区には神社・寺院の歴史、言い伝え、神楽などの伝統文化があるが、子どもたちだけでなく保育者である職員も知らないことが多かったという。

そうした中、地域の人々と子どもたちが関わり、様々なことを教えていただいたり体験することにより、地域の魅力や文化財に愛着を持ち、自分達が住んでいる真島地区を好きになり、伝統を継承していけることを願って研究テーマとして設定された。

職員は子どもたちと散歩に出掛け地域を歩き、歴史、史跡、文化財の写真を撮るなど確認をし、史跡マップを作成し、それを基に子どもたちに神様のこと、神楽のことなどを説明し保育に取り入れ、想像を膨らませ、知ろうとする意欲や感性を育むことに繋げている。地域の方からも神社の歴史、獅子舞、天然記念物の「真島のクワ」の話、かつて盛んであった養蚕の話などを聞き、子どもたちも地域の伝統や文化に興味を示しており、遊びや散歩の中で話題として上げ、一人ひとりの好奇心や探求心を育てている。

◇改善する必要があると思う点

1) 自然災害への更なる安全対策の整備について

昨年10月の台風19号による水害では、想定外の事態が起こり、同じ公立保育園で床上浸水を被った保育園もあった。多くの乳幼児を預かる各保育園において日頃から防災対策に取り組んでいる中、万が一の災害時において、子どもの大切な生命を守り、無事に保護者に引き渡すために、平常時、注意情報発表時、警戒宣言発令時、突発地震発生時などの様々なケースを視野に入れた防災対策を推進するとともに、保護者、地域社会、市をはじめとする各機関等との連携を取っている。

市として災害時における子どもの安全確保のため「危機管理マニュアル」を定め、園の「消防計画」や「水防計画」を立て、必要な対策を講じている。園では毎月想定を変えた不審者訓練、交通安全教室、避難訓練や災害時引渡し訓練を実施し、水防避難訓練（小学校と合同）、火災総合避難訓練等、災害時に備えた訓練を繰り返し行っている。また、緊急時に備え、緊急連絡網の作成、飲料水やアルファ米等の備蓄品が備蓄リストで管理されている。非常災害時に備えて各クラスには、非常持ち出し袋が準備され、緊急時に必要な物品や緊急時の連絡先一覧等も入っている。更に、職員は一年に1回程、「非常時参集メール」により訓練を行っている。

保護者に対しては、園だよりで啓蒙したり、引き渡し訓練を実施している。日頃から管轄の消防署や民生委員とは連携が取れるように体制を整えており、地区の各種機関と災害時協力体制についても話し合っている。災害時の防災ハザードマップに沿い、避難所となっている隣接の小学校との連携がとれるようになっている。

真島地区でもかつて洪水被害を被ったという歴史があり、自然災害はいつ発生するのかわかる予測は難しいが、どのような場合であっても保育所の職員は、子ども達の生命を守り、安全に保育することが最大の責務ではないかと思われる。いつ、災害が起きても慌てないように、日頃から防災の知識を深め、的確な判断と素早い行動が取れるように更に体制を整えていただくことを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和 2年 3月 9日記載）

第三者外部評価を受審するにあたり、全職員でマニュアルを確認しながら、子どもに寄り添う温かな保育や環境構成などについて園内研修を重ねてきました。そのことにより、それまであいまいになっていた事柄等についても職員で話し合い、周知・徹底することができました。

良い点であげていただいた

- （1）自然と開発が共存する環境を活かした感性を育てる保育
- （2）地域の人々との交流活動
- （3）小学校との連携
- （4）地域を知るための職員研修

については、これまで力を入れ取り組んできたことや、職員自身でも真島の良さであると感じていた点でもあった為、職員の自信になったと共に、“自園の強み”として今後もしっかり引き継いでいきたいと思っております

改善点である

- ・自然災害への更なる安全対策の整備

に関しては、今後の課題として向けて全職員で話し合い、改善に向け取り組んでいきたいと思っております。

最後に、新鮮な視点で評価していただいたコスモプランニングの皆様に感謝申し上げます。